

代表的日本人

「日本人のアイデンティティを問い直し、日本人が将来に向かう指針ともなるような日本人とは誰か」という趣旨の企画で、**文芸春秋** 8月号から連載が始まった「代表的日本人」。古く**1894年**に刊行された内村鑑三『代表的日本人』（西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮上人の5人）の現代版ともいえるものです。現代の知性とされる24人が各人の立場から5人をそれぞれの専門性から、あるいは女性陣は女性を意識して選んでいます。その中で、**数学者・作家の藤原正彦氏**が選んだ「代表的日本人」に、百年前の内村鑑三と同じく**山形米沢藩の10代藩主上杉鷹山**を挙げました。米沢藩中興の祖として私たちでも伝え聞いている鷹山は、かつて全国紙が日本の自治体首長に対して行ったアンケートでも、**理想のリーダー**として第1位にランクされたほどです。**17歳**で藩主となった時、米沢藩は莫大な借金をかかえ、民衆も苦しんでいました。鷹山はこれらを乗り越えるために、自分から模範を示して節約に努め、新たな産業を興して、財政の立て直しに全力で取り組みます。**35歳**で引退後も藩政に係わり、井堰建設などの大事業を完成させ、養蚕・織物・陶磁器・和紙などの産業を盛んにし、「なせば成る、なさねば成らぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけり」という言葉を残した名君でした。…越後から北信濃までを治めていた上杉家は、会津藩120万石までになった大大名家でしたが、関ヶ原の合戦で石田三成に味方したため、徳川家康により米沢藩30万石に減らされました。（さらに跡継ぎでの失策も重なり、さらに半分の15万石にまでなりました。）家臣6千名を手放さず会津から米沢へと移ったため、財政はみるみる悪化する。そんな上杉家史上最悪の時期に（？）10代藩主として迎えられた鷹山でしたが、…藩政改革を実行し、農業と産業の強化などを行った。（鷹山による米沢藩の藩政は在命中から日本全国の280藩の中でも模範として幕府から称揚され、明治以降では、**修身の教科書**でも数多く取り上げられていたようです。）内村鑑三の英語で著した『代表的日本人』で鷹山の生涯が海外でも紹介され、**第35代アメリカ大統領にジョン・F・ケネディ**の就任した際、日本の記者団に「日本でいちばん尊敬する人物」と聞かれ、すぐに鷹山の名前を挙げたという逸話が残っているほど、…鷹山に、**政治家の理想像を見た**と語ったそうです。



ところで、故ケネディ大統領の長女で駐日アメリカ大使を務めていた**キャロライン・ケネディ**も、山形県や米沢市の要請に応じて2014年9月に米沢市を訪れた際、「父は『一人でも世の中を変えることができる』『なせばなる』と、父親のケネディは鷹山を高く称賛していたとのスピーチをしたようです。…そんな縁もあってか（？）（山形県）白鷹山（994メートル）の山頂には2基の石碑が建立され、1基は鷹山が藩主としての心得を示した「伝国の辞」、もう1基には英語で「**国家があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが国家に何ができるかを問おうではないか**」（就任式での歴史的な名セリフ！）「大統領ジョン・F・ケネディ 上杉鷹山の称賛者」と刻まれているそうです。



キャロライン・ケネディ